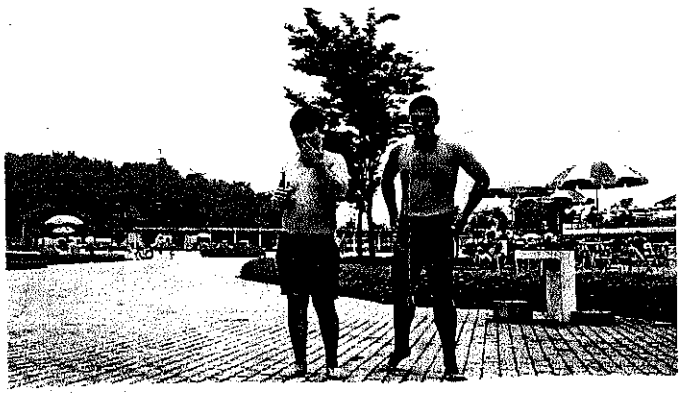
こぶしだより
働こう障害者も働けるんだオレたちも
1995年8月31日(木)
第183号
―発行―
こぶし作業所
宇都宮市柳田町1401
☎0286(62)1911

ファミリープール楽しかったよ！！

8月11日（金）に毎年恒例となっているプールの招待を受け、こぶし・けやき合同で那須野が原ファミリープールに行きました。

仲間がとても楽しみにしている行事で、7月のキャンプが終るとまだかまだかと首を長くして待ち望んでいます。ある仲間は一週間以上前から作業所に水着を持ってくるほどです。



ところが、毎年なぜか当日は夏とは思えぬ寒中水泳となってしまうプール。でも今年は違って多少水中の気持ち良さを味わうことができ、約1時間半あっというまに過ぎ、皆物足りなさそうにしていました。

日頃、高まる感情をうまく発散できずパニックを起こしやすくなっている仲間がずっとプールに入り自ら泳いだりとてもすがすがしい笑顔で職員に関わりを求め、一緒に気持ち良さそうに泳ぐ生き生きした姿がとても印象的でした。

作業所にもプールがあればストレス解消になって良いのかも――

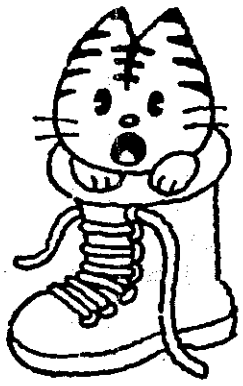
（金田）

けやき作業所授産施設へスタート

過日、8月3日（木）けやき作業所にて、けやき作業所後援会の臨時役員会が開催されました。その中で、住谷所長よりけやき作業所整備計画が提案され、今年1月に社会福祉法人こぶしの会長期整備計画策定委員会より提出されました長期整備計画の中でも芳賀分場（けやき作業所）の通所授産施設への転換の計画を法人として最優先としてとりくんでいく考えが明らかにされました。

この提案は後援会の役員の皆さんにも快く受け入れられ後援会としてもできうる限りの協力をします、との返事をいただきました。

そこでさっそく行動が起こされました。"けやき作業所の将来計画に関する三町関係者懇談会"。地元三町、芳賀町市貝町・益子町の各福祉課の課長及び議会の福祉関係担当の常任委員長にご足労願い、法人役員、後援会役員、保護者会役員、けやき職員が集いけやき作業所の通所授産施設への転換計画について説明され各町からの協力をお願いしました。



現在、けやき作業所は、一五名の定員です。芳賀地域に同種の施設が少ないため、養護学校卒業者等からの入所希望が多く、この要望に応えるため、また、地域の障害福祉の増進に寄与するためにもこの計画を一刻でも早く実現することが求められています。

これからこの計画の実現に向けていろんな事業を展開していきます。みなさんのご協力もよろしくお願いします。

"社会福祉法人こぶしの会長期整備計画書"立派な冊子がございます。まだお持ちでない方は、こぶし作業所・けやき作業所までご一報いただければ送付いたします。ぜひご一読下さい。

（成田）

9月のこよみ

2	（土）	指導会議
3	（日）	休所日
9	（土）	休所日
10	（日）	休所日
15	（金）	休所日
16	（土）	休所日
17	（日）	休所日
23	（土）	休所日
24	（日）	日曜作業所
30	（土）	職員会議

第1回障害者ハイク 山は気持良かった

去る7月30日（日）県内初の障害者登山が行なわれ、こぶしからも職員・仲間数名が参加、心地良い汗をかいてきました。

今回の取り組みは、福祉保育労働組合（福保労）栃木支部の障害協議会と栃木県勤労者山岳連盟が協同で「高い山に登ってみたい」という障害者の願いを実現しようと企画しました。

数カ月前から、障害者を含めお年寄りから子供まで誰もが参加できるクラブということで"障害者ファミリーハイキングクラブ"という名称の実行委員会をつくり検討してきました。初めてなのでコースも比較的無理のない所を選定、日光霧降の丸山・大山に決め（当日は丸山だけ登る）約50人以上の参加者（うち障害者14名）で、天気にも恵まれ楽しむことができました。

参加した障害者からは「ぜひ次回も」との声も聞かれ、「雲海を見てみたい」との希望も出されました。

今回登頂した丸山は、霧降高原の中にあり、ツツジ、ニッコウキスゲが咲き乱れ格好のハイキングコースでした。途中リフトを乗り継ぎ終点から歩き始めるとすぐに丸山分岐に着き、右手に名前のごとく丸い山が見えました。気持ちの良い笹の道を進むと、ほどなく登りになり岩のあい間を縫うように歩くと、小高い広い山頂に着きました。山頂では、トンボの群れに出会いお弁当を広げ、心ゆくまで展望を楽しみました。

（金田・渡部郁）

参加した仲間の感想

野中さん
楽しかった

大木さん
リフトがおもしろかった

牛丸さん
まず初めに景色がよかったのが一番でした、空気もうまっかたしいろんな人にあって話ができて楽しかったです。一つ言わせてもらうと上まで行きたかったです。

大橋さん
山登りははじめてなのできつかったです。山降りた時はこわかったです。
大木君の話はみんな迷惑したかもしれない。
花も少し咲いていた。霧がすごかった。ものすごく暑かった。
また行きたいと思います

今年も来ました 豊郷中体験学習

8月9日（水）、豊郷中学校の生徒さん19名と先生4名が、体験学習で来所しました。今年で5回目を迎えたこの交流を、仲間たちは毎年楽しみにしています。

オリエンテーションの後、ベアリング・かんぴょう・リサイクル（缶つぶし）・小屋作りにそれぞれ分かれて作業開始。慣れない作業も、持ち前のパワーと若さでどんどんこなしていきます。仲間たちともすぐに打ち解け、和気あいあいとした雰囲気の中で、あっという間に午前中が終ってしまいました。

午後は作業班を交替して再開。そして交流会、「暑い中での作業は大変だなあと思いました」「毎日単純作業の操り返しで、よく飽きないなあと感心しました」「はじめのうちはこわかったけれど、話しかけてみたらすぐに仲良くなれて良かったです」など、一人一人それぞれに思い出が出来たようです。先生方も初めての方から3回目の方まで様々で、生徒さんたちと一緒に汗を流していた姿が印象的でした。

豊郷中のみなさん、暑い中本当にお疲れ様でした。是非また遊びに来てくださいね。

（桜庭）

みんなで大地

原っぱで寝ころんでいると小さい頃映画でよく見た二枚羽根飛行機の編隊飛行のように、青空をバックに、蚊が空中で止まったまま5～6匹が浮いたり沈んだりして飛んでいる。耳を近づければきっと蚊の羽根の音がプロペラの音のように鳴り響いているのだろう。

先月の後半は見上げても白い天井。生き物の気配もしない室の中。「ひとりで病室」である。

小学校以来入院の経験は全くなく、一週間の間検査結果に一喜一憂。先生の一言でその日の気分が決定する毎日であった。

悪性腫瘍でないことを祈り医療的な処置に身を任せざるを得ない時間というのは他人の人生のように感じる。ちょっとした変化が暗い幕引きを暗示しているかのように。

若い頃はよく死ということを考えていたが、45歳になってこんな状況に置かれると45年間の人生がとても有り難く感じてしまう。いいことも悪いことも含めたくさんの経験を自分なりに生きてきた人生を、もちろん悔やまれることは沢山あるが、これが一回きりの自分そのものと納得している。その一こま一こまは具体的になればなるほど穴があれば入ったまま違う人間になって生まれ変わりたいほどの赤面ものである。

しかしそれにしてもというか、だからこそというか、振り返って自分の後ろ姿がいとおしく感じるほど自分にとって自分の人生は大切なものに感じる。

イギリスの障害者の人権宣言だったか定かではないが、その一項目に障害者の非行の権利というのがあってショックを受けた覚えがあるが、過激な言葉を使いたいほど障害者の現実の生活はさまざまな規制が大きい。失敗もしていろんな力が身に付く。制度の貧しさを基本用件としながらも、保護という生活の中で「期待される障害者像」は今もまだ障害者の自立＃生きがいを困難にしているのではないかと思われるのだが。

トピックス

＜けやき編＞

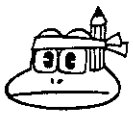
肥満防止にトランポリン

夏痩せ知らずのけやきの仲間たち。来たるべき食欲の秋に向け、心配事はただ一つ。それは「太り過ぎ」

そんな折、斉藤宗一君のお宅から、宗一君が愛用していた本格的トランポリンがけやき作業所に寄付されました。これは良かったと早速トランポリンでシェイプアップを試みたのは、ちょっと太めのN君と職員のKさん。N君は歓声とも悲鳴ともとれる声をあげながらも、空中で鈍く回転する芸を披露して、それを見ていた周りの仲間たちから拍手をもらい大喜びでした。

翌朝、屋外に置き忘れたトランポリンの窪みに雨水がたまり、小さなカエルが気持ち良さそうに泳いでいたのでした。

（塩入）



こぶしミニニュース

＜その1＞

来る9月4日（月）栃木県民福祉のつどいにおいて永年にわたる福祉施設での活動の功績に対し、住谷所長・高橋副所長が知事表彰を受けることになりましたおめでとうございます！！

＜その2＞

書記の藤田さんが、雀宮地域の民生委員として地域より推薦され、正式に決定しました。今後、こぶしのみならず、福祉分野全般での活躍が期待されます。

＜その3＞

7月より始まった作業小屋も完成間近となりました保護者のみなさんにお手伝いいただいた棟上げから、猛暑の中早朝からボランティアで続けて下さった小滝さんには本当に感謝いたします。11月頃からは、新しい作業小屋で石鹸づくりを開始したいと思います。

＜その4＞

キャンプ前に転んで膝を骨折してしまった芳っちゃんも8月25日には完全にギブスもとれ9月から登所してきます。元気な芳っちゃに会えるのを楽しみにしている仲間達です。

（荒井）